

第56回まことの保育中央講座 開催報告

保育連盟研修委員会



開講式

お盆があけた8月18日（土）～20日（月）。今年も、本願寺の聞法会館を会場として「まことの保育中央講座」が開催されました。第56回目となる今回は、全国各地より51名の保育者の先生方が参加されました。



1日目

講座は、12時30分より本願寺御影堂での開講式から始まりました。受講生全員、これから始まる研修に期待と不安を感じつつ、緊張した面持ちでご本尊に合掌し、「幼児のおつとめ」をしました。

開講式の後、研修会場である開法会館に移動し、オリエンテーションと、2泊3日をもにする指導員の紹介を行いました。引き続き、研修委員会委員長の加藤憲指導員から、「講座受講の心得について」という講話を聴いた後、第1回目の班別討議に移りました。初回の班別討議では、3日間の研修期間中、常に行動とともにする班の仲間に自己紹介をして、今の自分にとっての保育の喜びや悩み、課題等を出し合いました。

次に、龍谷大学非常勤講師の小池秀章先生の真宗基礎講座①『浄土真宗のみ教えを学ぶ』の講義を聴きました。み教えを聞いていけばいくほど自分の本当の姿が見えてくるということ、有難いと思う心ばかりでなく自分の心

の醜い部分等の嫌な面も誤魔化さずに見つめることの大切さ、そして、ともに育てられる私であることに気づいていくことについて、真実の世界である「浄土」と私たちの住む世界「穢土」とを対比するお話から、何事も自分のものさしで見てもう私であるということに気づかされ、受講生一同、終始深くうなずきながら受講しました。

夕食の後に2回目の班別討議を行い、小池先生の講座①の感想や、一人ひとりが抱えている保育の悩み等を話し合い、その後、織田智海指導員より「まことの保育の理念につい



真宗基礎講座 小池秀章先生

て」と題し、保育所保育指針・幼稚園教育要領等の改訂とまことの保育について、わかりやすくお話いただきました。今後は①身体をつかうこと ②自分で考えること、自分ですること ③人と直接かわることが少なくなっていく可能性が高いことから、幼児教育及び小学校以上の教育が大切になり、小中高の学習指導要領も改訂されたということや、資質・能力を育てることを課題とした主体的で対話的な深い学びが大切になり、幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』が求められているということ、また基本的信頼感が自己肯定感につながっていくので人を信頼できる子に育ってもらうということ、そして、そこにまことの保育が大きく関わってくることをお話いただきました。

「あなたがとても大事」だと、助けを求めた時、必ず助けてくださる、私のそばにいてくださる、案じてくださる。それが阿弥陀様、仏さまです。そのお心を聞かせていただきながら、これまでの自分の保育を振り返り、保

育することの本当の意味を問うていくことが重要です」というお話に、指導員・受講生の全員が、とても深く考えさせられ、充実した今日の学びに満足しました。

その後、就寝動行を終え、無事1日目の研修が終わりました。

2日目

2日目は、まだ静けさの残る早朝、読経の声響きわたる本堂でのお晨朝参拝から研修が



班別討議の様子

始まりました。お晨朝参拝後には、普段は非公開である本願寺の書院も拝観し、貴重な経験に受講生から感動の声が挙がる場面もありました。

朝食の後、1日目に引き続き、小池先生から真宗基礎講座②として、「お釈迦さま」「親鸞さま」「阿弥陀さま」について、受講生の方々に理解しやすいように、わかりやすくご講義をいただきました。

その後、小池先生の講義と1日目の討議の内容を踏まえつつ、3回目の班別討議を行いました。2時間の話し合いの後、昼食と休憩の時間を挟み、午後からは仏教音楽・儀礼研究室の森本佳代先生より、仏教讃歌の講義を



仏教讃歌 森本佳代先生

いただきました。詩の意味や、子どもへの内容の伝え方、そして実際に歌う際の強弱といった、仏教讃歌のポイントをわかりやすく教えていただき、全員でたくさんのお歌を歌い、リラックスしながらも学びの多い時間を過ごすことができました。

仏教讃歌でリフレッシュした後、4回目の班別討議を行いました。それぞれの班で、本講座で学んだことや、日頃の保育の悩みや自己の保育を振り返りながら、一層深い内容の



夕食・交流会

話し合いが行われました。

夕方には、ビュッフェ形式の夕食をおいしくいただき、各班、さらに懇親を深めることができました。また、食後にはゲーム大会や班ごとに手遊び・クイズ等の出し物を披露し、班の垣根を超えた交流もありました。受講生だけではなく、指導員もリズムに合わせたダンスを披露する等、時間を忘れて大いに盛り上がり、大変楽しい交流会となりました。

3日目

2日目と同様、お晨朝の参拝から始まりました。朝食後は、最後となる5回目の班別討議を行い、その後、レポートやアンケートを思い思いに書いていただきました。

その後、本講座の締めくくりとなる全体会を行いました。各班の2泊3日の研修の学び、気づきを発表し、それを受けて指導員が今後のさらなる研鑽と期待を込めて、コメントをしました。

最後に、山下義円総務ご臨席のもと、閉講

式が行われ、無事受講生全員に修了証が授与されました。受講生を代表して、本願寺中央幼稚園の徳山知春先生に謝辞を頂戴しました。

〈受講生代表謝辞〉

この度「第56回まことの保育中央講座」では、講師の先生をはじめスタッフの先生方、事務局の方々等、多くの方に温かいご指導、ご配慮をいただきましたことに対し、受講生一同、心からお礼申しあげます。

この研修を通し「まことの保育とは」「今を生きて 生かされて ともに育ち合うとは」を再度考え、自己を見つめ直す機会をいただきました。たくさん先生の出会い助言をいただいたこと、また同じ目的を持つ受講生の皆さんと学び合えた時間は、大変貴重な時間であり、意義深いものになりました。

今回、私たちが参加させていただいた講座は第56回を数えます。1回目からたくさんの先輩方が、この「まことの保育講座」から巣立っていかれたことだと思います。私たちも

その先輩方同様、「まことの保育」を名のる保育者として、また「まことの保育」に出会わせていただいたことに感謝し、その名に恥じぬよう日々の保育に努めたいと思います。この3日間、私たちのために本当にありがとうございました。

受講生代表 京都教区 本願寺中央幼稚園 徳山 知春



謝 辞